第三の窯の構築法については、事務局（考古第三調査室）側から、中山瓦窯の最古の窯は階段式登窯であるので、同一形態の2基を、一方は日乾しレンガで作り、他方は硬化剤を入れて固め、その後くりぬくという案を提示しました。これに対し、藤原宮の時代の瓦は須恵質で、平城宮になると焼きがあまい（大極殿の瓦も同じ）という巨視的な見方からすると、階段式登窯ではなく、平窯的な登窯にした方が良いのではないかという意見が出されました。討論の結果、最終的に階段式登窯1基、平窯的な登窯1基を作ることで意見がまとまりました。

第四の今後のスケジュールについては、まだ未定の部分が多いので十分な討論ができなかったのですが、さしあたりこの第1回の研究会をふまえて、考古第三調査室が「瓦・磚製作実験の計画書」を作り、来年度からの具体的な手順・費用を示すことを約束して会を終えました。この会に参加していただいた多くの方々・関係者に厚く御礼申し上げます。

（平城宮跡発掘調査部）

## 研究会の開催

第1回　瓦・磚の製作実験についての研究会

平城宮大極殿・大極殿院の瓦に関する研究会のうち、瓦・磚の製作実験について、第1回研究会を11月12日に奈良文化財研究所の小講堂でおこないました。当日は、研究所の内外から22名の方が参加しました。

討論の内容は大きく4つに分け、1）製作実験の目的・意義、2）生瓦を作るまでの技術的復元のあり方、3）窯の構築法、4）今後のスケジュールの順で話し合いがおこなわれました。

第一の製作実験をおこなう必要性については圧倒的に賛成意見が多かったのですが、瓦製作の実験的な試みと、実際に大極殿で使う使わないという問題とは、一応別立てにして検討すべきであるという意見でまとまりました。

第二の生瓦を作るまでの製作技法上の問題ですが、粘土の選択及び粘土自体の分析、粘土の練り方、桶状造瓦器具の製作法、麻布の織り方、布袋製作法、縄叩き原体の復元などが話し合われました。